県立広島病院広報誌
もみじ
第99号
2017.5.1
発行
県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号
※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で 検索 (URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

連携医院のご紹介

今回は、「親子で気軽に安心して受診できる明るいクリニック」を目指している「いいだこどもクリニック」の飯田典久先生です。

飯田院長（中央）とスタッフ

いいだこどもクリニック

〒734-0007
広島市南区皆実町４丁目２２－８
電　話／082-250-1115
院　長／飯田　典久
診療科／小児科・内科

○いつ開業されましたか。

両親の住居のリフォームを契機として、小学校２年生まで過ごしたこの皆実町で開業させていただきました。

開業時期に行われていた区画整理事業により、周辺道路が整備されたため、現在は地域の患者さんに加えて、遠方からも車で来院されます。

○開業されてから今までのことを教えてください。

子どもと接することが好きなこともあり、大学関連病院などで小児科医として経験を積んできました。しかしながら、開業後は、医療技術だけではなく、経営者の視点・スキルも必要だということを痛感しています。

○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

プライマリーケアが必要な患者さんが多いため、子どもさん、親御さんの小さな訴えにも耳を傾け、相談しやすい雰囲気づくりを心掛けています。その際に、重要となるスタッフ間の連携も、開業以来のスタッフを中心に構築できていると自負しています。また、子どもの感染症では、予防が第一と考え、予防接種にも力を入れています。

○開業医のやりがいは何ですか。

治癒した後に、親御さんに感謝の言葉をいただいたり、元気になった子どもさんの笑顔に癒される時でしょうか。

○県病院はどんなところですか。

日ごろの診療予約は、地域連携センターに FAX でお願いしていますが、緊急時には小児科・小児外科の医師等に直接お願いしています。いつも速やかに受け入れてもらい、心強く思っています。

お子様が楽しめるプレイコーナー ▶

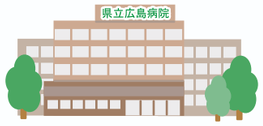
いいだこどもクリニック外観

【取材後記】
明るい色彩の建物と、陽光が差し込む居心地の良い待合室等により、子どもたちが落ち着いて治療を受けることができるクリニックと感じました。

県立広島病院からのお知らせ

がん医療従事者研修会

開催日　平成29年 **5**月 **9**日(火)
時　間　19:00～20:30
場　所　中央棟2階 講堂
テーマ　『胃がん診療における最新のエビデンス』
総合司会　副院長/板本 敏行
座　長　消化器センター消化器内視鏡外科主任部長/漆原 貴
講　師　消化器センター内視鏡内科部長/東山 真
消化器センター消化器内視鏡外科部長/徳本 憲昭
臨床腫瘍科主任部長/篠崎 勝則
対　象　医療従事者 及び その関係者
問合せ先　総務課管理係（担当:種本）
TEL:082-254-1818
内線（4271）



5月のがんサロン

開催日　平成29年 **5**月 **25**日(木)
時　間　14:00～15:00
場　所　新東棟2階 ラウンジ
テーマ　『肺がんの新しい治療についてのお話』
講　師　呼吸器センター長(兼)
呼吸器内科主任部長　石川 暢久
対　象　悪性腫瘍(がん)で通院 または
入院されている患者さん 及び
そのご家族
問合せ先　がん相談支援センター
☎082-256-3562（担当:佐々木）

リウマチ科

教えて Dr.9

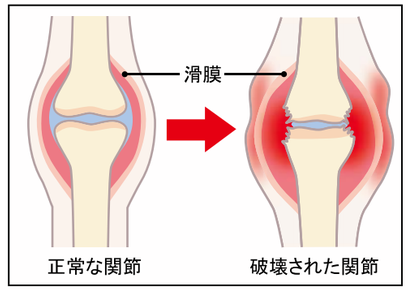
専門診療医による得意治療を紹介いたします。

関節リウマチ

主任部長
前田　裕行

■関節リウマチとは

関節リウマチは、関節の内側を覆う滑膜に炎症が起きて関節が腫れて痛くなる病気です。（右絵参照）
関節以外に肺などの内臓にも病変が出現することもあります。

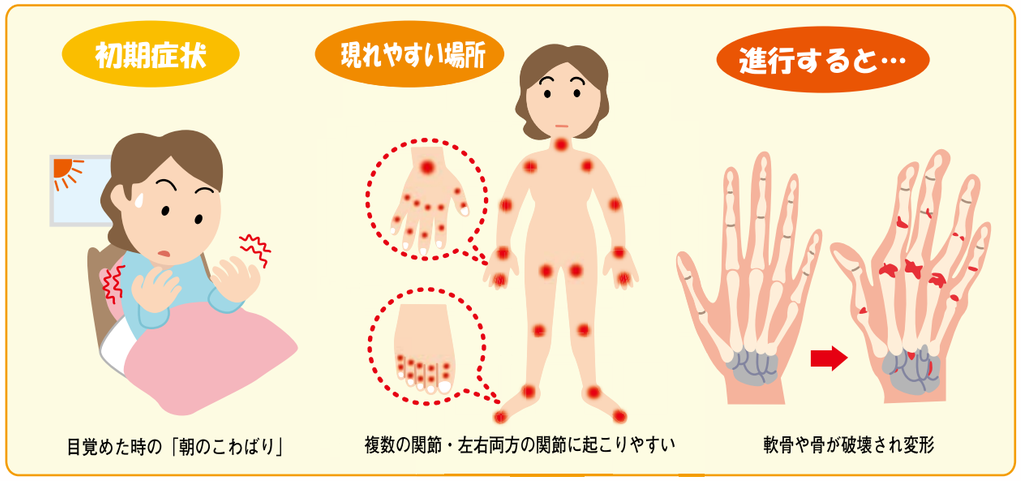


進行すると関節の機能が損なわれ日常生活に支障をきたします。全国で 70 万人以上の患者さんがいるといわれ、30 ～ 50 歳代の女性に多く発症しますが、それ以外の年代や男性にも起こり得ます。原因は完全には解っていませんが、遺伝による体質にウィルス・喫煙・歯周囲炎等の刺激が加わり、免疫異常をきたして発症すると考えられています。

■こんな症状に注意

初期症状は、朝目覚めたときに両手指の関節がこわばって動かしにくい「朝のこわばり」や関節の腫れ･痛みです。複数の関節（多発性）や､左右両方の関節（対称性）に起こることが多く、特に手指、足趾(あしゆび)や手首に好発します。進行すると軟骨や骨が破壊されて関節が変形します。

発熱、疲れやすい等の全身症状を伴うこともあります。肺が冒されると息切れや咳が出ることもあります。貧血や骨粗鬆症も重大な合併症です。



次頁に続きます→

教えて Dr.

■診断と治療

診察、血液検査、レントゲン検査などで診断しますが、状態により超音波検査、CT 検査、MRI 検査も行います。関節が痛む病気は関節リウマチ以外にも数多くあり、関節リウマチであったとしても発病初期には診断が困難なこともあります。早期に診断して進行しないうちに治療を開始することが重要です。

関節リウマチでは主に３つの治療法「薬物治療」、「手術療法」、「リハビリ」がありますが、近年とくに薬物治療の進歩が著しく関節の変形も完全に防げるようになり、場合によっては治療の必要がなくなる状態（完全寛解[*1]）にすることも可能となりました。

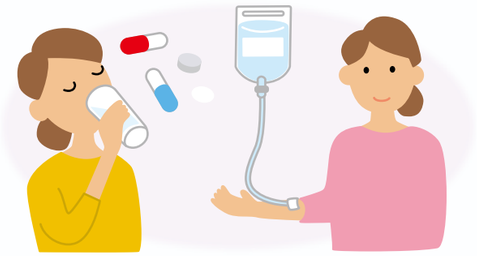
心配な症状がある場合は早期受診をお勧めします。

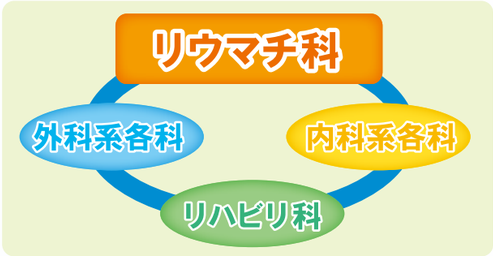
関節リウマチの治療法

■県立広島病院での関節リウマチの治療

関節リウマチの治療薬は、炎症を抑えて痛みや腫れを軽くする「抗炎症薬（ ステロイドと非ステロイド性にわかれる）」と、免疫に働きかけ病気の進行を抑える「抗リウマチ薬（csDMARD）」、新しい抗リウマチ薬として注目されている「生物学的製剤（bDMARD）」の３つに分けられます。

最近はさらに新しい作用機序[*2]のJAK阻害薬も加わりました。当院ではこれら薬剤を病勢、年齢、肝機能・腎機能、肺の状態、妊娠希望の有無などに応じて単独あるいは併用にて使い分けています。特に肺や腎臓などに合併症のある患者さんには格別な注意が必要であり、当院のような複数診療科の連携が密な専門施設での診療が望ましいとされています。


薬物療法が基本です



当院では症状に合わせて多様な対応が可能です

■関節リウマチの治療目標

当院では3つの治療目標を定め、達成に向けた治療に取り組んでいます。

＊1　寛解＝全治とまでは言えないが、病状が治まっておだやかであること　　＊2　作用機序＝薬が人体に対して働くメカニズム

外科医の独り言 no.68

― 業界用語 ―

今でこそカルテは誰が見てもわかるように日本語で書かれていることがほとんどです。ただし、すべてを日本語で書いてしまうと長々と書くことになり、英語の略語を使うこともあります。すべてを日本語で書かなければならないという法律はありませんが、カルテ開示が必要になった時などには日本語で書かれていないと医療関係者以外の方にはわかりにくいのでできるだけ日本語で書くことが推奨されています。

私が医師になった昭和 58 年当時は、英語でカルテを書くのが主流でしたが、10 年以上先輩の医師のなかにはドイツ語で書かれている方もおられ、しかも手書きなので読解に苦労した覚えがあります。これは明治維新以来昭和 20 年代までの日本の医学は、ドイツ医学を手本に進歩してきた経緯から、英語が主流となった後も長年医学と言えばドイツ語、というイメージが付いて回りました。

研修医の時の廻診では、患者さんの前で教授、助教授の先生方がドイツ語単語交じりの会話で質問してこられるので返答に窮し、先輩医師に助けてもらうことが度々ありました。

当時はがんの告知という概念がなく、悪い病気を隠す風潮があったので、患者さんの前では日本語とドイツ語が混じった変な会話をしていました。「がん」という単語はドイツ語で「Krebs クレブス」で、胃がんの患者さんの前では「Magen Krebs」あるいは略してＭＫと言っていました。平成に入ってからさすがにドイツ語のカルテは見なくなりましたが、今度は英語でカルテを書いて、病名や患者さんに知られたくないことは英単語を連発していました。「がん」は英語で「Cancer キャンサー」と言いますが、そのうちキャンサーという言葉ががんを意味することなど誰でもわかるようになり、「Ca シーエー」と略して言うようになりました。

がんの告知が当たり前のようになった現在では、患者さんが見てもわかるようにカルテもできるだけ日本語で書き、わざわざドイツ語や英語で書く医師は少なくなっています。ただし、医療従事者間の会話では、いまだにドイツ語、英語交じりの会話がまかり通っています。それはドイツ語、英語の略語の方が使いやすいということがあるからです。たとえば、白血球はドイツ語では「Weisen Blutkorperchen ワイセンブルトコルペルヘン」と言いますが、これを略して「ワイセ」と言い、「はっけっきゅう」というよりはよほど省エネなのです。ちなみに英語では「White Blood Cell ホワイトブラッドセル」で、略して「ＷＢＣ ダブルビーシー」となりますが、あまり省エネでもなく野球と間違いそうなので誰も使っていません。

やはり「ワイセ」なのです。このように医療業界ではいまだにドイツ語、英語の変な略語と、そして日本語が混じった業界用語が飛び交っています。まあ、どの業界でも意味不明な業界用語が氾濫しているようですが、少なくとも患者さん・ご家族の前では正しい日本語で話をしなければなりません。

ちなみに電子カルテが普及して最近困っていることがあります。手書きで書いていた時代にはあり得なかったことですが、私はどうも変換間違いをやってしまっているようです。

たとえば、「かんさいぼうがん（肝細胞癌）」と入力して「関西帽眼」と変換され、「たんのうがん（胆嚢がん）」と入力して「堪能がん」と変換されてしまい、そのまま記録として保存されていることがあります。院内の医療従事者の方で気付いた人はそっと訂正して頂ければ幸いです。

副院長（消化器センター消化器・乳腺外科主任部長）板本 敏行（いたもと としゆき）

当院ホームページが新しくなりました！

この度、当院のホームページをリニューアルいたしました。スマートフォン対応を始め、皆様がより見やすく、より使いやすいものとなるようにデザインを見直しました。がん医療のページには、詳しい治療内容などを順次掲載していきます。今後も内容の充実を図り、誰もが使いやすいホームページづくりに努めて参ります。

県立広島病院　http://www.hph.pref.hiroshima.jp/

新しくなったTOP画面